

シューマンの歌曲

《5つのリート》作品 40 は、1840 年の作。この年は、爆発的に歌曲の名作が生まれたことから「歌曲の年」と呼ばれる。本曲集は 19 世紀ドイツの詩人・作家シャミッソーの詩による。第 4 曲まではアンデルセンの原詩をシャミッソーが翻訳したもので、暗喩に富んだ謎かけのような内容。最後のおとぎ話のように軽やかな 1 曲はギリシャの民衆詩を訳したもの。

19 世紀ドイツ・ロマン派の詩人アイヒェンドルフの詩による全 12 曲の歌曲集《リーダークライス》作品 39 は、1840 年「歌曲の年」の作。3 月に義父ヴィークとの法廷闘争が一段落し、晴れてクララとの結婚が実現して幸せの絶頂期にあったシューマンだが、5～6 月にかけて書かれた作品 39 は、超自然的なものへの畏怖、神秘への憧憬、内面に蠢く影など、ドイツ・ロマン派における夜の属性が存分に表現された傑作となった。

シューマンがドレスデンからデュッセルドルフに移住した 1950 年に生まれた《3つの歌》作品 83 は、渋い 3 曲で構成される。詩は第 1 曲がシューマンの友人ユリウス・ブッドイス、第 2 曲は 19 世紀ドイツの詩人リュッケルト、第 3 曲はアイヒェンドルフ。いずれも満たされぬ想いを抱えた、日の当たらぬ主人公の一人語りのような歌である。

《ロマンスとバラード集 第 3 集》作品 53 も、1840 年「歌曲の年」の作。19 世紀オーストリアの詩人ザイドルの詩を用いた第 1 曲は、王に仕える吟遊詩人の物語（バラード）。リフレインが印象に残る短い第 2 曲は、友人の妻が書いた詩に付曲している。第 3 曲はハインリヒ・ハイネの詩集『歌の本』から採られ、恋に破れた若者の絶望を歌う。

《レーナウによる 6 つの詩とレクイエム》作品 90 は 1850 年の作。「歌の年」以外に書かれたものであるが、傑作の誉れ高い。ニコラウス・レーナウ(1802–50)は 19 世紀前半に活動したオーストリアの詩人で、晩年は精神を病み、不幸な最期を遂げた。本曲集はレーナウが亡くなる直前に完成したが、7 曲目には 19 世紀ドイツの詩人ドレーフェスが翻訳したラテン語詩に曲を付けた「レクイエム」が置かれている。